

○内谷重治市長 蒲生委員のご指摘のとおりでして、実は私ども西置賜でも本音としては東南置賜で恐らくまた施設が必要なんだろうと、それを我々西置賜でまた負担させられては納得できない、市民に申しわけないということから、向こうで施設が必要だったらやはりきちんと建ててもらいたいというふうに思っています。同じでございます。

ただ、今回の消防の広域化の目的は2つございまして、1つは、防災無線のデジタル化、これに膨大な整備投資がかかると。西置賜で5億円ぐらいというふうな当初話でした。もう少し下がるようでございますが。ですからもし仮に一本にならないとしても、防災無線だけは3市5町でできるんじゃないかなということが1つ。

あともう一つは、単独の消防ですと、西置賜は1市3町でやっていますが、人口規模で7万人切っておりますので、そうしますと、補助事業としていろんなポンプ車とか設備を投資する際にどうしても順番が後になると。今、単独の市とか町では補助のポンプ車というのはもうあり得ないんですね。そのぐらい国の方の姿勢も変わってきましたもんですから、そういったところでの検討をしたいと。ただし、委員おっしゃるとおりでございます、私どもから補佐クラスを派遣しますけども、実は課長クラスを派遣したいんだと。というのは、置広の事務局長は米沢から管理職を派遣してますから、さらに推進室の室長も管理職として米沢から必要ないだろうと我々長井は1市3町を代表して来るんだから、うちで室長のポストをいただきたいということで、副市長からも私からも、あと担当からも再三申し上げて、なかなか難しかったんですが、私が最終的に行って直談判しました。しかし、「いや、どうしてもそれも米沢じゃないとだめなんだ」という理事長のお話だったので、それなりの私もスタンスをとらざるを得ないと。

同じように、非常に1対9ということで危な

い、これ崩れてますよね。ですからクリーンセンターは一本化する予定だったんですね。米沢で使わせてもらう、南陽で使わせてもらう、法外な負担を条件として出されましたもんですから、1市3町、私を中心となって呼びかけまして更新すると。その方が将来とも確かだろうというふうに思ったぐらいでございます、私もその辺は慎重に、ぜひ委員からもご指導いただきながら進めてまいりたいと思います。

○町田義昭委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 防災無線のデジタル化って、これも必要なんでしょう。多分補助が出てくるんで、これしかやりようがないんだと思いますね。できるだけ事業規模をふやさないで、やれる部分だけやっていくという。ちょうどアウトソーシング事業なんかもそうですけども、検討は全体でしましたけれども、できるところだけでやるという方がずっと効率がいいと思いますので、そのような方向で臨んでいただければありがたいと思います。終わります。

蒲生光男委員の総括質疑

○町田義昭委員長 次に、順位2番、議席番号6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 通告しているのは3点なんですが、主に1番を中心にして、福祉事務所長を中心にお聞かせいただきたいと思います。肝心なところはやっぱり市長の答弁をいただくようにしてまいりたいと思います。

長井市の保育計画からということなんですが、この問題は、ほかの委員の方も質問されるようでありますので、私は、ちょっと少し視点が違うかもしれませんが、この間の厚生常任委員会の後、協議会に切りかえまして保育計画について休憩をして自由に委員の皆さんのお考

えをお聞かせをいただいたわけでございます。その中には大変貴重な意見もございましたので、それを余り埋没させるのではなくて、やはり日の目を見せて、検討すべきものは検討していただくというのが一番いいのかなと思ひまして、この問題を取り上げさせていただきます。

本当だと業務の棚卸しの関係をする予定だったんですが、にわかにかつうふうにか方針を切りかえましたので、総務課長には大変申しわけないことをしたなと思ひております。

15日に大変感動的な南北中学校の卒業式がございまして、北中の方は私ももちろん行っていないからわからないんですが、多分南中と同じようなものだったのではないのかなと思ひます。予算委員長があいさつをなされまして、非常に感動的な卒業式であったと、アンジェラ・アキの「手紙」という曲がずっと流れまして、そのことも触れられておられました。この感動的な卒業式ができるというのも子供がきちんといるからでございまして、まちづくりの基本は、やっぱり幼児がいて、小学生がいて、中学生、高校生、大人社会、老人社会というふうにか複合体になっていることが一番望ましいわけですね。それが人口が今現在3万人を切ったのかどうか、後でお答えいただきたいんですけども、人口がどんどん減ってきてるということでございまして、保育計画というのは単に幼児期の保育をどうするかというだけではないと思ひますね。これが小学校課程、中学校課程、高校課程につながっていくということでありまして、特に保育計画を策定した背景は一体何を背景にして策定したのかというようなことがちょっと非常に気になっているところなんです。

その前に、アンジェラ・アキさんの「手紙」というのがあったもんですから。これはもともとNHKの第75回全国学校音楽コンクールの中の中学校の部の課題曲なんです。何でそうだったかというのがちょっとあったもんですから

参考になりますけれども、この曲は、もともと合唱コンクールの課題曲としてつくられたのかという質問がありまして、アンジェラがかつう答えてます。そうなんです。NHKの方から中学生用の課題曲を書いてほしいと頼まれて、そのテーマが、「そして☆未来へ」だったんですね。でも私は中学生に言ひてあげられるのは、この先大変だぞとか、そんな感じのことでしかなくて、その次の週ぐらにかアンジェラが30歳という節目の誕生日を迎えたんですけども、そのときに母から手紙が届いて、そこには、私が10代のころにか30歳の自分へという題で書いた手紙が入ってたんですね。それを読んでみたら、きょう学校で何々君にあんなことを言ひかれて最悪とか、そんなネガティブなことしか書いてなくて、でも10年以上もたっているから、その何々君というのがどうしても思ひ出せないんです。きっと今の中学生たちも同じようにいろんなことに悩んでいるんだらうけど、それはきっと時間が解決してくれるんじゃないかなと思ひて、それをきっかけにか自分から自分への手紙という形で未来をあらわしてみようと思ひて、この曲をつくり始めたんですということなんです。

ずっといろいろインタビューが続いてるんですけど、この曲をどんなふうにかリスナーに受けとめてほしいですかという質問に対しては、アンジェラをかつう答えてます。「この曲は、大丈夫だよという応援歌的なものよりも、一人じゃないんだよというメッセージの方が大きいと思ひます。みんな同じように悩みながら生きてるんだよという、そういう孤独の中でのつながりというか、いろんなところへつながるきっかけの曲になってくれたらうれしいですね。それは友達同士だけじゃなくて、自分自身の中でも過去の自分とあしたの自分、そしてきょうの自分がかつながるきっかけになる一曲であってほしいなと思ひてますね」というんでつくったというふうであるようでございます。大変い

+

い歌だなというふうに私も何度も聞き直してみたんですが、それから今までですと「大地讃唱」とか「旅立ちの日に」って定番ですよ。

「旅立ちの日に」は秩父の方の学校の校長先生が作詞をされて、坂本浩美という音楽の先生が曲をつくられた。この曲がずっと歌われ続けているのは大変感動的な、1年に1回しか聞かないですけども、そういう感動的な卒業式だったなというふうに思ってます。

こういう感動的な場面を私たちは年間に何回か体験できるんですね。やっぱり保育計画というのはあってほしいもんだなというふうにつくづく思うわけでありまして、まず、この保育計画についてですけども、策定に当たった福祉事務所長にお聞きします。策定に当たりましたメンバーですね、だれとだれとだれとだれがつくられたのか、それをお聞かせください。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 お答えいたします。

メンバーでございますが、今までの経過を申し上げますと、庁議のメンバーに素案といえますか、方向性を検討していただきまして、その後、内部で検討したという結果になっております。具体的に素案ができてからは、行財政改革推進委員会や児童センターの運営協議会、あとは保護者の代表の方というふうなことにご説明を申し上げております。以上でございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 庁議で方向性を出して内部で検討した、内部というのは福祉事務所の中で検討したと、こういうことですか。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 そのとおりでございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 その庁議の中でどういうふうに方向性を出したのか、どのような視点で考えて方向性を出したのかというようなこ

とについては、だれに聞けばいいんだべ。市長でいいですか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

庁議ということで今、福祉事務所長が申し上げましたが、たたき台を19年度に実施いたしましたアンケート調査、保護者のですね、また内部でのいろいろな保護者あるいは地域社会の要請にこたえるための保育のあり方を検討した内容としてたたき台として作りまして、それを庁議で意見を言い合って、少し肉づけをさせていただいたと。そしてそれをあくまでも素案として行革委員会や、ただいま言いましたように申し上げたと。しかし、まだこれは「素案」として考えておりますので、これはもうこれで行くという計画の段階ではないというふうに思っております。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 福祉事務所長にそこら辺のことを言ってもらわないと、いきなり庁議でどんと来たかのように錯覚しますのでね。錯覚すると、それでもって質問しますからだんだんややこしくなります。

そうしますと、素案ですからそりゃもちろんわかります。これから幾つか肉をつけかえたり手直しをしたりして成案となさるんでしょうけれども、アンケート調査をたたき台にしたということなんですが、そうしますと、それ以外に何か調査をしたりして素案づくり、案の案をつくったということではないということですね。福祉事務所長に。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 そのとおりです。19年度に実施させていただきましたアンケート調査の内容をもとに素案を……。あと新庄市、米沢市の方に視察に参りまして状況をお聞きして作成したところでございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 これも前に言ったことがあるんですが、計画をつくるときにはPDCAと横にありますよね、縦にもPDCAとありますよね。そうしますと、このPの部分が重なります、PとP。計画のための計画なんですよ。だから計画をするためには、その計画をしてPDCAというふうに行くんですよ。それでよければ計画が成り立つのですよね。だからその計画でいいかどうかという検証が極めて大事だというふうに申し上げておきたいと思うんですよ。

それで米沢市と新庄市の方に聞きに行ったということもあるんですが、アンケート調査をしたアンケート調査の結果の内容は保護者の肉声だと思いますから、その点はよろしいと思うんですよ。ですけども、それ以外のことについては聞いたり見たりして、いわゆるデスクワークで仕上げた素案であると、このように理解してよろしいわけですか、福祉事務所長。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 米沢と新庄、県内の状況等しか事例としては検討しなかったということでデスクワークと言われればそうなりますが、福祉事務所の所内の中にも既に子育てをしている職員等ございますので、そちらの方のご意見を聞いてということもあります。以上です。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 これですよ、これの2ページに図表2ということで長井市保育計画の基本目標ということが書いてございまして、「長井市次世代育成支援地域行動計画」って「行」が抜けてるのかな、「長井市次世代育成支援地域動計画」というところがあって、さらにその下の段に長井市保育計画って21年から30年ということで、ここに子供の幸せ、次代の親づくり、サービス利用者のニーズ、社会全体による支援、すべての子供と家庭への支援、地域における社会資源の効果的な活用、サービスの

質の確保、地域特性を生かした支援、そしてその下の保育計画の中には、次代を担う子供たちが元気に健やかに育ち、子育ての喜びが実感できる社会の実現、①として保育環境の再編整備、民間活用を推進したスリムな行財政運営、老朽施設の整備と保育環境整備、②として仕事と子育てと両立支援、多様な保育ニーズに応じたサービス体制の充実、③として子供と親を応援する社会づくり、安心を提供できる相談、情報体制の充実、子供を支える地域ケア体制の充実ということで、素晴らしいことが書いてあるわけですよ。

これが実践できたとするならば本当に素晴らしいものだと思うんですけども、どうもそこまではこれをいろいろ見させていただいてもらってないという感じがしてますので、人口減少であるとか児童数の減少ということについて、その見込みの数字はずっと出てるわけですけども、その対策として何かをするというようなことじゃなくて、こういうふうになるから、じゃあ、こうするしかないごでみたいな対処方式になってると思うんですね。本来は、市長が目指す任期4年ですから、とりあえず4年間でどういうまちづくりをしたいかというのは施政方針の中に示されていると思いますけれども、それを受けて、じゃあ、保育計画というのはどうあるべきかという、そういうような計画の練り方が私は必要なんじゃないかと思うんですよ。そういう点でいうと、市長の、いわゆる目指す方向性とどうなのかという点をちょっと疑問に思ったりするんですけど、その点いかがでしょうか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 蒲生委員がおっしゃいますように、この計画は計画づくりのための計画、これは担当者が一生懸命つくりましたので、そこまで言い切るのは酷かとは思いますが、福祉事務所で作られる計画は概して国のいろんな施策

+

が出て、それに応じて長井市でどういう次世代の育成を図りますかとか、あるいは福祉計画をこうしますよという完成の計画が多いなと私は思っていました。しかし、今の体制の中でそれを例えば今、企画調整課でやってるような経済再生戦略会議のような市民を巻き込んだり、あるいはいろんな方のご意見をいただきながら一步一步積み上げていくようなやり方は、ちょっと難しいのかなと。

そんなことから21年度に子育て支援室を設けて、その中で蒲生光男委員がおっしゃるような本当のこれから子供をどういうふうにしてふやすかということも含めて総合的な妊娠から保育、それから小学校、中学校と、そういった教育も含めて、しかも子育て世代のいろんな支援策、そういったことも含めて検討すべきものと。しかし、今の段階では、まずたたき台として素案をつくっていただいたと、頑張って職員がやりましたので、これはこれで生かしながら来年度以降よりよいものを、ぜひ議会からも意見いただいてつくっていききたいというふうに思っています。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 協議会の中でも言ったんですが、地域の中から子供の声が聞こえなくなる、こういう地域づくりは絶対あっちゃいけないと思いますから、どうやったらそういったことがないようにしていくかという視点が必要だと思うんですね。ですので、やっぱり管理職という立場で考えれば、市長が目指すものを先取りをした保育計画をやっぱりつくっていただきたいと私は思うんですよ。そういう意味で、子供が減ったからこうしようという対処方式ではなくて、もっと先を読んだ総体的なまちづくりに貢献できるような保育計画であってほしいというふうに思っています。

今回の妊産婦健診の14回、これもきょうの新聞にも出ておりましたけれども、財政の事情で

6割しか負担できないとかという自治体があるって、その格差が出てるということがありましたけれども、やっぱりそういったことがなくて、子供が産み育てやすい長井のまちづくりを目指していくべきではないかなと。その中にこういう保育計画や児童の安心して住めるまちづくりがあるのではないかなというふうに思っていますので、ぜひ心がけをお願いしたいというふうに考えています。

このいわゆる計画策定の背景ということで、まず人口の推移というのが出てます。それから世帯数及び世帯人員、それから婚姻、離婚の動向、出生率及び合計特殊出生率というのがあるって、さらに保育施設の入所時の推移、財政の悪化と民生費の増加というようなことがそれぞれ掲げられておりますので、やっぱり人件費を含めた財政問題を避けて保育計画を組むことは非常に困難であると。それはだれしもが理解できることだと思いますね。

それで今の児童センターの保育士さん等の配置基準からいいますと、やっぱり児童数が減ると、どうしてもそこに何らかの手を打たざるを得ないということになってまいりまして、結果的に、こっちの資料で示しておられるように伊佐沢児童センターについては24年に統廃合を一つの目標にせざるを得ないという計画策定であるわけですね。ですけれども、協議会でも出ました、例えば豊田と一緒にしても豊田の分室という形で残せないかであるとか、あるいは園長先生は兼務でいいのではないかなとか、あるいはまた民間人を昔のように起用してもう少し総体的な人件費を下げる努力をしたらどうかとか、そういったことが出てるんですね。そういったことについても、ぜひ具体的な検討をしてみたいというふうに思いますけど、いかがでしょうか。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 ただいまご意見いただ

いた件につきまして、よりよい方向に進むように頑張ってもらいたいと思います。以上でございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 よりよい方向、そりゃそうですね。もう少し具体的に、市長から、それじゃあ、答弁いただけますか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 いろいろご指導いただきまして、ありがとうございます。まず伊佐沢の児童センターについては、保育計画の素案の中では24年度に統廃合というふうに明記はしておりますが、これは決定でございませぬし、過日、園児バスの運営委員会の代表者会の方へ出席させていただきまして、やはり伊佐沢の保護者の方からは何とか残していただきたいと、何か方法ないだろうかということ、そこでいろいろ話したのは、結局子供、園児がいればいわけですから、それを例えば伊佐沢出身のお母さんが長井に住んでると。

だとしたら伊佐沢児童センターにもしかしたら預けてもらえるんじゃないかとか、あるいは伊佐沢もさくら大橋ができてから非常に便利がよくなっていますし、米沢とか南陽の方に通勤するのに非常に便利ですので、そういった意味で「非常に優良で安価な宅地等を整備すれば住んでくれる人がいるんじゃないか」と地元の方もおっしゃってましたし、私も「それは必ず可能性としてありますよ」と。そんなことなんかも考えながら、まずいろんなことを考えていかなきゃいけないなというふうに思っております。ただし、22年から致芳児童センターについては指定管理者制度を検討しなきゃいけないということなものですから、これについては21年度に入ってから、やはり早急にその可能性を検討しなきゃいけないなというふうに思っている部分もでございます。以上です。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 今、市長からいみじくも住宅地の提供の話が出ましたので、私もずっと寝ながら考えてまいりました。どういうふうにすればいいのかなど。この間、児童が1人になるもんでという担当課の職員の話がありまして、「1人になってしまうもんだからそういう統合を考えざるを得ないのよ」という話の中で、「児童が1人になるんだつらば児童をどっかから誘致するというか、来てもらうというので考えたらどうなんや」という話をしました。

かつて平野小学校で、これも協議会で言ったんですけども、2クラスだったのが児童数が1人の関係でクラスが1つになるというようなことがあって、じゃあ、中央から住宅地を提供してみんなで出しっこして呼ぶべとなつて、1人連れてきたんですね。それで先生2人配置したということがあったんですね。だから逆もまた真なりであるとそのときに申し上げたんですね。そうすると、単に子供に来てくださいなんて言ったってだれも来やしませんので、どうすれば来てくれるかということもあると思います。

今回、白鷹の町営住宅6棟間もなくオープンしますけども、それは子育て世帯に提供するというふうに聞いてます。3万5,000円程度の家賃だというふうに聞いてますけども、そうしますと、例えば長井市で、伊佐沢地区でもどこでもいいんですけども、そんなに30坪も要らないと思いますので、例えば25坪程度でいいと思うんですが、宅地として買収するとなれば、これまたえらい高い話になりますので、やっぱり農地の単価で反当価格の買収をして、それを転用して宅地に提供して、何かそういう世帯向けの住宅地を提供する、そして固定資産税は当然減免するとかという優遇策を講じれば、これは私は勤労世帯の方がここに来てくれるということは非常に可能性の高い話じゃないのかなというふうに思ったりするんですね。ですので、そういうことについても、できるか、できない

+

かちょっと検討してみたいというふうに思ってるんですけど、その点は市長にお答えいただきたいと思うんですね。

それから、白鷹町の町営住宅については、どのようになっているか調べといてくれというふうに福祉事務所に申しあげましたので、その点は福祉事務所の方からお答えいただきたいと思います。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 後で人口のことを聞かれるということだったんで私から言ってしまっは申しわけないんですが、2月の28日現在で3万人を切ってしまいまして、2万9,994名ということでございます。21年度にプロジェクトをぜひ立ち上げて、3万人復活ではちょっと寂しいもんですから、かつて3万3,500と言われてた時代が長かったものですから、「3万3,000人人口復活大作戦」みたいな形であらゆる施策を考えなきゃいけない。

結局、過日の一般質問でも明らかになりましたように、22年度に国調がございましてね。そうしますと、恐らく23年度以降の地方交付税が1億2,000万円以上減ると。ですから人口が減るとするのは、当然市税も減りますし、深刻な問題だと思います。ですからもうそろそろ長井も積極的に人口をふやす、まず定住人口、それから交流人口をふやす施策を委員がご指摘のように、例えば優良で本当に安い住宅地の提供やら、あるいは子育て世帯をターゲットとした住宅、これは市営住宅とか雇用促進住宅とまた違った住宅を用意する、あるいは当然雇用の確保も含めてですけども、まず子育て支援に力を入れて、イメージ、長井って魅力あるというようなイメージのまちになきゃいけないなというふうに思っておりますので、ぜひ議員の方からもいろいろご提言いただければ大変ありがたいというふうに思います。私は以上です。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 白鷹町の事例でございますが、若者定住の目的で、8棟ほど固定資産税の軽減措置可能ということの30坪未満の住宅を建設できる宅地を町が低額で提供しているというふうなことで、ただいま委員の方からもありましたとおりに月額3万5,000円程度ということでお支払い、ローンを組めるような形で新築住宅できるような宅地を提供しているというふうな情報を得ております。以上です。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 6棟はもう建ってるはずですよ。そこまでしか調べてなければ結構なんですけども、私行って見てきますので、建ってるんですよ、もう。そういうところはあれですよね、長井市も大いにまねをすればいいというか。土地の問題は定期借地権の方法もあるんでしょうけども、ですけども、これ50年後に更地にして返せなんてということではなくて、やっぱり安く買っていただくというのが一番定住していただけるわけですから、その方がいいと思うんですよ。固定資産税の大事な財源だから財政課長が反対するかもしれませんが、子育ての一環ということで思い切った英断をしていただければ、そういったことも可能になるんじゃないし、ぜひそういった取り組みについても検討していただきたいというふうに思います。

それで人口が2万9,994名ということで、非常に一つの大きいラインが崩れたわけですから、ややもすると、がたがたと減り続けるなんていうふうにならないように、今、市長が言われたように3万3,000人のまちづくりをぜひお願いしたいものだなあというふうに思いますね。

雇用の問題については、大道寺議員も何か質問されるようなんですけども、ここは直接は関係ないんですが、読売新聞に3月12日に出た「はたらく」という、こういう記事なんですけども、ここに「派遣労働者は「タマ」、彼らの給与は「原価」と呼んでいる。人間扱いをし

ていない、と言われれば、そのとおりだ。」関東地方のある人材派遣会社の幹部は業界の内情の一端を自嘲ぎみにそう話した。取引先の企業から派遣の要請があれば、「タマ」を手配する。北海道から九州に行かせた時には、「今日はずいぶん飛ばしたなあ」などと話し合うという。この会社では、社会保険の適用もいい加減で、雇用保険にも加入させないケースが多い。保険料の会社負担分は、給与引き上げの原資に使う。労働契約法で原則禁止されている契約途中の解雇も常とう手段だ」というようなことで、ずっと以下いろいろ書いてあるんですけども、非正規労働者の問題というのは本当に長井市にとっても他人事ではないと思います。

この非正規労働者の職員、従業員の数の推移というのを見ますと、1984年当時50万人ぐらいだったものが今150万人、200万人というふうに言われるようにこの資料では出ておるようでございます。やっぱり働く場所があつて、それから住める場所がある、それで初めて地域の一員としての自覚というものが出てくるんじゃないかなというふうに思うんですね。「ワーキングプア」というような言葉があつたわけですが、最近「ハウジングプア」という言葉があるんですね。住まいの確保にも苦しむ新しい貧困層を語る言葉だそうです。こういったことも含めて、いわゆる子育て世代の住宅の提供については、雇用を守るという観点からも大きな問題だと思っておりますので、ぜひご検討いただければありがたいものだというふうに思います。

それで、さっき室の話も出ましたので、私は、かつて「子供課というのをつくったらどうだ」というようなことを提案して、前の市長は「課まで行かないけれども、係ぐらいは置きたいものだ」という話があつて、今回室となったわけですけども、その室の目的は、私がイメージしてるような、そこでいわゆる子供に関する一切の処理ができるような機能が伴うものと理解し

てよろしいのでしょうか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 委員がただいまおっしゃったようなことで考えております。加えて、子育て世帯のいろんな応援するような施策も総合的にそこで考えていきたいというふうに考えております。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 この間も協議会の中で出た内容からですけども、例えば伊佐沢地区に限らず地域の声をとれだけ把握したんだろうかというのがありました。声を聞くというふうなことでは、市政座談会の形式みたいなものもあるかもしれませんが、例えば伊佐沢の住民のバスなんていうのは本当に成功した一つの事例ですよ。地域的なそういう思いが非常に強い地区だと思えますし、また実際やってらっしゃいますし、そういう点でいえば、「この地域から子供をなくしたら困んなでねえか」という問いかけをしていったら、何かいろんな知恵が出てくるんじゃないかと思ったりもするんですよ。

そこで「地域の中のかかわり合い」というふうに書いてますけども、そういったことをどういうふうにして酌み取っていくか、それを計画の中に盛り込んでいくかというのが大事なことだと思うんですが、担当課長としてはどういうふうに思ってますか、どういうふうにこれからしていこうというふうに考えてらっしゃいますか。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 地域から子供がいなくなることについては、本当に大きな問題であるところとっております。子供がいなくなることから起こる医療や教育などの地域の衰退の危機感ということを保護者だけでなく地域の問題としてとらえられるような形で、座談会方式になるか、どういうふうな形になるかこれから検討しますけれども、みんなでとにかく、保護者だ

+

けでなく、おじいちゃん、おばあちゃんまでも参加していただきながら地域の問題としてとらえていかれるようなディスカッションの場を設けていきたいと考えているところです。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 「保育ママ」という制度が法制化されたというようなことがあるわけですが、こういうことについては、例えば具体的に長井市でどうなんだろうかという取り組みの研究は福祉事務所長はなされたんですか。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 保育ママにつきましても検討したところです。こちらに関しましては、待機児童が多い都会の方になじむかなということで、長井市には余りなじまないものと判断しまして、具体的に事業を進めていくまでには至らなかったことがあります。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 都会でしかなじまない制度だと、決してそうじゃないと思うんですよね。例えば保育士の数は減少しますし、正規としてはとらないという計画ですので、保育士の資格を持つてる方あるいはまた持たないけれども、その助手的な仕事ができる方については時間帯に応じて短時間労働ができるような、そういう環境をつくることも多様な保育ニーズに対応するという一つの方策としてはあり得る話ではないかというふうに思うんですね。直ちにこれを実施しようなんてことを申し上げてるんじゃないんですよ。そういう事例をただ新聞報道だけで判断しないで、もっと事例を研究したらどうでしょうかと、研究すべきじゃないかというようなことを申し上げておきたいと思うんですよね。

「どれくらいの事例を研究したか」と書いてありますが、どのくらいの事例を研究したんですかねって言ったって、さっき言ったように米沢と新庄に行きましたという話しか出てこないと思

いますので、それはそれで結構なんですけども、これからもいろいろ見聞きしてほしいんですよ。

私の方はちょっと調べてなかったんですけど、厚生常任委員会で福井の方に視察に行ったときに、そこは痴呆症の老人の方もいて、例えば乳幼児の方もいて、一緒に生活をしてると。子供を見るという、触れ合うことで老人は非常に生き生きしてるという事例が一つあったんですね。やっぱり同じ世代の年齢だけじゃなくて、横だけじゃなくて縦というものが非常に必要なんじゃないかなというふうに思いますので、そういう事例だって世間にはいっぱいあるんだと。例えばインターネットで調べてみてください、福祉事務所長、何ぼでも出てきますよ、そういう事例が。ですので、そういう事例を少し研究してみたいというふうに思いますけども、いかがでしょうか。

○町田義昭委員長 船山祐子福祉事務所長。

○船山祐子福祉事務所長 これからいろんな事例を検討してまいりたいと考えております。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 里親の関係なんかも出てきますので、それも一緒に検討してみたいと思います。

検討して、それを成案にするか、実施するかというときは、この間、この間っていうか、前の議会のときに我妻議員からもありましたように、指宿の市民バスを運行させるために随分と試験運転を何度も何度も繰り返してやったというふうにご紹介申し上げたと思うんですね。やっぱりそういったことがこの保育計画にしても必要なんじゃないかなというふうに思いますので、もうディスカッションをしたり、実際練ると、練るという作業を繰り返し、繰り返しやっていただきたいなというふうに思います。

これは一つの計画でいいですよ。だから21年あたりは計画とか素案じゃなくて、もう実際実

施しなきゃいけない時期ですよ。でもこっちにずっと行くと、それがぼおっと薄くなっていくわけですよ、まだ。こっちが濃くても30年になっただけで薄くなっていくわけですよ、色合いとしては。だからそれをどんどんどんある色に染め上げていくように、成案という形になるように検討していただきたい。さまざまな意見があったことは事実ですから、そういったことを含めて検討していただきたいというふうに思います。

支え合う社会の実現という点でいきますと、福祉計画にもそういったことが盛り込まれておりますけれども、保育計画についても、同じだと思えますよね。私どもの北向地区の事例でございますと、地区に加入してない方が一緒に地元の子供会の子供と一緒に通学しています。「何とかそうではなくて、地区に加入していただきたい」というふうに申し上げましたら、「そういうつもりはない」と、「全然違う地区の子供会に今度入る」というふうに、随分おかしな話だなというのが出たんですよ。それでも「事故のないように、ちゃんと通学時には学年の上の子供が面倒見ていただきたい」と地区長が申し上げておきましたが、非常におかしな話だなというふうに私は聞いておりました。これでもって本当に支え合うというふうに言えるのだろうかというふうに、今度は親が問題だななんていう話まで出てたんですけども、そういう事例がやっぱりありますので、この支え合う社会の中で子供の育成ということについては、いろいろ問題があるようなところもあるようでございますので、いろんなところに心配りをさせていただいて、これを進めていただくようお願いしておきたいと思えます。

次に、黒獅子まつりの関係についてお聞かせをいただきたいと思えます。

ことしは節目の年ということで予算も何ぼか増額になったんですが、昨年の黒獅子まつりの

反省と、それから、ことしの計画という点でどういうふうに考えてらっしゃるのか、市長にお聞かせいただきたいと思えます。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 黒獅子まつりにつきましては、観光協会に委託事業でしていただいている中の一つでございますけども、市民の皆様が振り手も一緒に実行委員会をつくられて、いろんな努力を、いろんなアイデアを出されて行っているということで大変ありがたいというふうに思っておりますが、観光協会については、我々の方から委託はしてるんですけども、やはり市民の皆様がボランティアで行っていただいている団体ということから、余り私から直接申し上げてというか、全く私から直接申し上げておりません。ですから市の意向については、できるだけ観光協会の意向を尊重して、そして予算を計上しているような今形になっております。しかし、私はこれがいいとは思っておりませんので、これから21年度以降ぜひもっと行政と一体となって、やはり行政、観光協会あるいは市民の皆様と一体となったお祭りにしなければならぬというふうに反省しているところでございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 そうしますと、基本的にこのようなお祭りの形態にしてほしいというようなことも何もない、委託料を全部出して、それで「計画はこういうふうにします」、「ああそうですか」で終わるわけですか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ただいま申し上げましたのは、なかなか申し上げる機会がありませんので、市の意向としては、商工観光課長が理事として入っておりますので、その中で生かしていただいているものというふうに思っております。ただ、これでは決していいとは思っておりませんので、ですからあえて申し上げたのは、例えば「つつ

+

じまつり、あやめまつり、ぜひ議員の方もお招きしてください」とか、「こういうお祭りはこうすべきだ」ということは、やはり市民の皆さんが実行委員会をつくってやっていただいておりますので、非常に最初から入らないと言いくいと。「こういうふうにやりますよ」ということに対して文句を言うみたいな形ではまずいので、やはり21年度からはまさに協働でやっていきたいというふうに思っているところでございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 商工観光課長に、それじゃあ、お伺いしますけれども、ことしは20年目、節目の年でもありますので、何か盛大に計画なさっているんじゃないかなというふうに思いますけれども、そういったことはございませんか。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 21年度の計画につきましては、観光協会の方で黒獅子まつりの検討委員会を中心にして検討しております。現在までの検討の内容といたしましては、5月22日を前夜祭、5月23日を本祭りというふうなことで予定をしているというふうなことでございます。22日には参加神社の警護のそらい踏みあるいは獅子頭彫り等の体験等をやるというふうなこと、それから23日には午後から獅子舞、それから小学校の伝統文化発表会というふうなことを予定しているというふうなことでございます。

なお、関連いたしまして、各種の組合あるいは商店街等との協賛イベントを組んでいきたいというふうなことで、今、検討しているところでございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 22日が前夜祭で、獅子頭彫り体験ですか、22がね。体験っていったってなかなか大変なんだろうと思いますけども、23日が本番と。去年ビデオ撮影をしまして、なかなか出てこなくて、出てこなくて、出てきたの

はいつ最近ですよ、完成したのは、DVD。もうことしのお祭りが間もなく始まるというときにやっと出てきたという。そうではなくて、ああいうものをつくったらなるべく早く出していただいて、販売できるようになった方がいいんじゃないのかなというふうに思うんですよ。そういうのは反省事項にはならないんですかね。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 ご意見ごもっともでございます。私もDVDを作成しているというふうなことをお話を聞いたものですから、観光協会のホームページにそのDVDの中身を編集して動画をホームページの中に流すというふうなことを考えてみてくださいというふうなお話をさせていただいたんですが、なかなか実現できないような状況だったかなというふうに思います。観光事業が一段落をしてから、なかなかその後の事務処理等もあるんだろうというふうなことでは考えております。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 ですから今、商工観光課長が言ったようなことが即効でできるようにやったりしてほしいと思うんですよ。欲しくて待ってる人がいっぱいいるんですよ。それが彼岸の中日あたりに出てきたんではちょっと遅過ぎるんじゃないかという感じしますので、せっかくならば、時期を逸さないでやってほしいと思います。

それとカレンダーの問題でもいろいろありましたね。ことしはああいうカレンダーを今度は観光協会とかでつくるという計画はありますか。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 今のところ私の方では聞いてございません。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 事務局長につくったらどうだと私の方で問いかけしましたら、ぜひ検討

してみたいなことを言っていましたけども、黒獅子まつりの実行委員会というのはもう開かれてるわけでしょ。そうじゃないですか。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

実行委員会ということでなくて、検討委員会だったと思います。

(「開かれたのですか」の声あり)

○齋藤理喜夫商工観光課長 観光協会の中で、つつじ、あやめ、それから黒獅子というふうな主な、それから水まつりとあるわけなんですけど、観光協会の中でチームをつくって年間を通して検討しているのは黒獅子まつりの検討委員会でございます、黒獅子まつり検討委員会につきましては、ほぼ年間を通して検討しているというふうな状況でございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 じゃあ、検討委員会は年じゅうあるということですか、365日。そうなんですか。それもちょっと変だなと思うんですけども、だったらそれでいいですけども、カレンダーのことは知ってますよね、いかがですか。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 カレンダーについての写真等のデータについて、いろいろ問題があったというふうなことでは聞いております。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 長井の里というのは黒獅子ということで今、定着していると思うんですね。黒獅子まつりは、あやめまつり、白つつじまつり、そのほかのお祭りもあるんでしょうけども、欠かせないイベントになってるんじゃないですか。だとしますと、これの位置づけをもう少し高めていくとか、そういう努力はしてしかなるべきではないのかなと思うんですけど、何か受け身であるまりやる気がないみたいな感じなんですけど、どうなんですか、そこら辺は。

もっともっと発言をしているいろんな意見を聞いてやるべきじゃないかと思うんですけど、どうですか。

○町田義昭委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えになるかですが、水まつりが終わった後から特に観光協会の事務局の方には、とにかく来年度に向けて各祭りの検討をするような体制をつくってくれというふうなお話はさせていただいておりますし、その動きが出てくれば、私どもの方も一緒に入って検討させていただくというふうなことをお話をさせている状況でございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 ぬかにくぎ打ったような答弁で非常に不愉快ですね。そうではなくて、やっぱり長井の黒獅子まつりというのをもっともっとメインにしてやっていくべきじゃないかなと私は思うんですよ。私も好きだから余計そういうことを感じるのかもしれませんが、ぜひ多くの人に来ていただけるような黒獅子まつりにしていただきたいものだ。カレンダーが欲しいという人がいっぱいいるんですよ。今度果たしてつくったときにどれだけ売れるかという、またそういうこともありますので、なかなか一概には言えないところありますけどね。でもやっぱりいろんな黒獅子のグッズなども、例えば渋谷正人さんが手ぬぐいをつくったり何かいろいろやってるじゃないですか。そういうことも含めて黒獅子まつりというのはもう少し長井のメインのお祭りであるということの位置づけを明確にして、もっと取り組んでいただきたいものだなというふうに思うわけですね。

例えば獅子頭を製作する方は長井市内に大分いらっしゃると思います。その方々、ある方が言ってるんですが、「せっかくつくって彫っても飾るところがない」というふうにおっしゃってます。かつて黒獅子会館なんていう提案をし

+

た議員もいらっしやったわけですが、黒獅子会館とまでいくかいかないかですが、一堂にそういったものを展示する機会をぜひつくっていただきたいと思うんですけども、今現在は本町の商店の中に飾ってる方とかありますけれども、やっぱりギャラリー停車場とかやることあるんですけど、ごく一部なんですよね。獅子の歴史がわかるようなものであるとか、さまざまなものを展示していただくと非常に獅子に対する理解度も深まって、私は黒獅子まつりに欠かせないものになっていくんじゃないかなと思うんですけども、そういった工夫をぜひ何らかの機会にしてほしいと思うんですけど、市長、いかがでしょうか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 蒲生委員がおっしゃいますように、やっぱり黒獅子が結構大きいもんですからなかなか飾るところがないという話をお伺いしたりしておりますので、ぜひ観光協会にもご協力いただいて、呼びかけしてまいりたいというふうに思います。

ただ、先ほど齋藤課長の方からもちょっと気がないような答弁だということだったんですが、実は今の観光事業のかかわり方、行政と、いわゆる委託先の観光協会とのかかわりがやはりもう少しうまくやっていかないとだめなんじゃないかなというふうに思ってます。観光協会はNPOとかの法人格は持ってないんですが、全く法人格ないNPOだというふうに私は関係を考えておりますので、そういった意味では、市民の皆さんが一生懸命ボランティアでいろいろな計画を立てられて祭りを市の方から委託事業としてお願いはしてはしますが、実行していただいていると。それに対して意見は申し上げますけども、「ぜひこれお願いします」と申し上げますけど、「これをしなさい」と、下請ではございませんので、そのところが非常に難しいなと。

ですから先ほどから申し上げてますように、例えばカレンダーも私は残念ながら人から聞いて初めて知りました。そういったことも一切知りませんし、しかし、市民から見れば市がやってるんだらうというふうに思っておりますので、これはどっかで整理しなきゃいけないなと。それが21年度あたりにできればなというふうに思っております、やはり一体となって、観光協会の熱意はわかるんですけども、行政ともやっぱり観光というのはかかわっていかないと、またいろんな民間の業者さん、あるいは市民の方と一体となっていかないと、おもてなしということも含めてやっぱりまちを挙げてやらなきゃいけないと。そういった意味では、黒獅子は本当に代表的なお祭りですので、市としても力を入れたいんですけども、なかなかもう少し空回りの状況ですので、ぜひこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくご指導お願いいたします。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 時間ないので。かかわり合い方について工夫をしていただけないことですので、そういう点ではご期待申し上げたいと思います。予算についても書いていますが、精いっぱい予算でしょうから、この範囲の中にあって楽しめる黒獅子まつりをぜひお願いしたいと思います。

最後の質問で、こんな時代だからというふうには書いていますが、かつて桜町の市政座談会に行った折に前中里地区長から、「私たちにできることがあったら行政から言ってほしい」という問いかけがありましたよね。やっぱり各地域、地域でできることというのはいっぱいあると思うんですよ。それをさせていただくことによって行政サービス、いわゆる行政の仕方というのは変わってくるんじゃないかと思えます。

それから、これも何度か言ってるんですけど、地区で自主的に取り組む際の材料の提供である

とか機械の貸し出しだとか、そういったことについてちゃんと整備をして進めるという建設課長の予定であったんですが、これは今どうなってますか、その点だけ最後にお聞かせいただいで、ぜひ、そうでないとする、進めていただくようお願いしたいと思っておりますけど、いかがでしょうか。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 協働の道づくりとか、あるいは花いっぱい関係だと思っておりますけども、それについては準備しておりますので、また正式に要綱等までは至っておりませんが、ぜひ21年度早々にできるように、そして地元の熱意にこたえられるように準備したいと思っております。ありがとうございます。

○町田義昭委員長 6番、蒲生光男委員。

○6番 蒲生光男委員 あと1分ありますから。
建設課の方で進めていた何でしたっけ、あの表題、ありましたよね。それちょっと振っていただいで答えて。

○町田義昭委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 失礼しました。詳しいことにつきましては、建設課長の方から答弁いたさせます。

○町田義昭委員長 鈴木一則建設課長。

○鈴木一則建設課長 お答えいたします。

昨年要綱をつくりました、申しわけありません、市長。昨年いろいろと地区長会の方に入らせていただいで説明をさせていただきました。今年度も各大字地区長会の開催日に合わせまして要綱配付をさせていただいて、ぜひ取り組みをいただけるところには声かけを私どもの方にしていただくようお願いをしているところでございます。

なお、昨年中も道づくり、それから側溝入れ、それから草刈りとか泥上げということで、いろいろな形でご協力いただきましたところに機械刈り上げ、それから廃棄といえますか、草の投げ

場所の手だて、それからさまざまな原材料の支給という形でさせていただいております。まだ認知度が始まったばかりなものですから、今までの作業との境の部分といえますか、具体的にとなるとちょっと微妙な地区作業ということもありますので、これから順次PRを進めてまいりたいというふうに思っております。

○町田義昭委員長 ここで暫時休憩いたします。
再開は3時20分といたします。

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

○町田義昭委員長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

我妻 昇委員の総括質疑

+

○町田義昭委員長 次に、順位3番、議席番号3番、我妻 昇委員。

○3番 我妻 昇委員 よろしくお願ひいたします。ただいまは蒲生委員から保育計画のこと詳しくあったわけですが、私は、その中でも児童センターの使用料と学童クラブの負担金ということで質問させていただきたいと思っております。

昨年3月の定例会では、値上げについて児童センターの方は全員で否決になりました。その後どのような議論、検討を進められたかというのが今のところわからずじまいで、今回保育計画の素案というのが出されたと思っております。あわせて今後の考え方というものは、ある程度は素案にも載っているわけですがけれども、その2点について詳しくお聞きしたいと思います。

児童センターについては、皆さんご案内です